

長野県植物誌資料集の出版に向けて —長野県植物誌資料集作成委員会の報告—

委員長 清水建美 (松本市岡田松岡 211-3)

植物誌出版前後 1997年12月25日付けで長野県植物誌編纂委員会が「長野県植物誌」(信濃毎日新聞社刊)を出版してから早や3年半が経つ。この植物誌は信州大学をはじめとする各地の標本館(室)の既存の標本および委員会メンバーが20有余年にわたり各地を踏査して得た標本や野帖の記録を基礎として編纂された。これらの標本の1枚1枚、野帖の記録のひとつひとつがすべて一定のフォーマットにしたがってデータベースに収納されている。しかし、収納されたデータのすべてが植物誌上に公表されている訳ではない。たとえば、引用された標本の記録はデータベース内のデータの1割にも満たないし、フェノロジーに関するデータは全く引用されていない。そこで、植物誌の出版に先立ち、データベースのすべてを公表し、より有効に活用されることを願って、1996年11月29日、第12回植物誌執筆者会議の席上、委員長から「長野県植物誌資料集」の作成が提案された。植物誌には「長野県植物誌とコンピュータ」の表題のもと、金井弘夫博士のデータベースの問題点の指摘と「データベースの今後」についてのコメントも掲載されている。

資料集作成委員会の発足 こうした状況の下、1998年9月14日、旧植物誌編纂委員の有志18名が相い寄り、長野県植物誌資料集作成委員会を結成した。目的は、信大所蔵

の標本データをすべてを再チェックし、収納ずみのデーターの修正をおこない、さらに出来るだけ新標本データの追加蓄積をおこない、最終的に資料集を出版することにある。当初の参加者は17名、植物誌執筆分担の科を担当することを原則としたが、委員会発足時にはすべての群や科をカバーしきれず、時間の経過とともに対応策を立てることにした。幸い、その後現在までに10名の参加者があり、27名の構成となった。会議出席旅費やアルバイト謝金などの運営費は、植物誌印税の寄付、1999年度は全労済からの助成金、1999年、2000年度は長野県生物多様性研究会からの補助金などでまかなわれている。本年3月に公表された「長野県植物レッドリスト(維管束植物篇)」は、改良途上の本データベースに依るところが大きい。

5月10日現在、標本点検追加未了の分類群は残すところ少数科となり、信大所蔵の標本の点検は終りに近い。今年度は特に都立大学牧野標本館所蔵の標本(浅野・菅原担当)および国立科学博物館の小泉秀雄標本(清水担当)など県外所有の標本の点検追加に重点が移りつつある。これらの追加作業が終了する出版時にはデーター件数は45万件程度となる見込みである。

資料集の出版 長野県植物誌は植物誌・資料集・分布図集の3部作を以て完了する。資料集と分布図集をどのような形で出版するか

について、先日、第6回資料集作成委員会において議論され、結局 IT 革命の国家的要請にも応えて電子出版(CD-ROM)とすることが決まった。これには、データに加えて何よりも優先して分布図作図プログラムを登載すれば、一枚の CD-ROM で事実上資料集と分布図集の両者を出版したことになる。CD-ROM のメリットは、比較的安価に制作できること、保管のためのスペースはごく小さくてすむこと、制作予算に応じて何通りもの機能を持たせることができることなどにある。現在、長野県のみならず全国的に利用可能な仕様とできないか検討中である。どのような機能をもった CD-ROM にすべきか、会員の皆さんからいろいろとご意見を頂ければ幸いである。おそくとも今年度中に少数部のテスト版 CD-ROM を出す方向で作業を進めているところである。

植物誌の再 PR 資料集には、長野県植物誌の基盤となった植物和名・学名・地名・位置座標・標高・採集者名・フェノロジー・採集者名・標本所在など各種のデータが含まれる。一方、植物誌には科・属・種・亜変種への検索表、属ごとの花部のイラスト、研究史や植物地理論が含まれる。資料集にはこれらの記事やイラストはなく、植物誌の標本引用の誤りは資料集で正される。資料集は植物誌に引用された標本の正誤表の役割も兼ねているのである。このように、両者は密接に関連し合い、姉妹編と呼ぶべき関係にある。そこで、現在、資料集の出版に先だって、植物誌の再 PR を始めることにした。出版元によると植物研究会員および紹介者には2割引のサービスが可能であるとのことである。

会員各位がそれぞれ入手され、近くの図書館や学校や同好の方々に是非お勧め頂くことを期待している。この場合、1 + 1 は 2 ではなく、2 以上の効用を発揮するものだからである。

内外への DB の紹介 ①2001年9月23-26日、北京で The Third International Conference on Preservation of Botanical Collections (第3回植物コレクションの保全に関する国際会議)がおこなわれる。私はスピーカーを依頼されたので、Database Session で "The floristic database of Nagano Prefecture and its utility (長野県植物誌のデータベースとその活用)" のテーマで長野県植物誌資料集データベースの紹介をしていくことにした。同時に、海外におけるフローラ関係のデータベース構築と利用の状況について広く情報収集に努めたいと考えている。

②科学技術振興事業団科学基盤情報部長から、9月28日、生物多様性に関するデータを地球規模ですべての人が自由に利用できるようにするため、世界中の生物多様性に関するデータの編集、リンク化等の実施、調整をおこなう開かれた国際調整組織「地球規模生物多様性情報機構」Global Biodiversity Information Facility (GBIF)の設立準備をすすめているので、データベース保有状況に関するアンケートに答えて欲しい旨のメールを入手した。早速、長野県植物誌資料集データベースに関し、答えておいた。このデータベースが世界的に広く利用される日の近いことを祈って止まない。